Ｂ・Ｃグループ

「学び・やり甲斐・ACTIVEプロジェクト」の指導内容を中心とした、

「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の実践例

～～他者のものの見方を踏まえ主張が的確に伝わる文章を書く～～

山梨高等学校　国語科

**（１）課題の内容**

まず、多様な視点からの書を読む機会が少なく、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、　整理する力が足りないと感じられる。また、読み手の理解が得られるよう構成や展開を工夫したり、自身の考えが的確に伝わるよう根拠の示し方や説明の仕方を考え表現を工夫したりする力が乏しいと言える。

実社会における問題点を多角的に捉え、溢れる情報を的確に把握していく力をつける必要を感じる。ま　た、山梨高校では多くの生徒が大学や専門学校の推薦試験を受験するため、文章を書く力、伝える力を確実につけさせたい。

**（２）課題改善に向けた具体的な取組**

　①課題文から筆者の主張やその根拠となる部分をまとめる。

　②関連する事項を、図書や新聞やインターネットを利用し収集する。

　③論点を定め、自身の意見を書く。

④書いた意見文を生徒間で読み回し、それぞれ良い点、直すべき点、疑問点、意見、感想等を書く。

　⑤④を踏まえ意見文を書き直す。

　⑥よく書けているものを教員が紹介し、どの点が優れているかを説明する。

　⑦新聞へ投稿する。

**（３）取組の成果とその要因**

　課題文として「生活・社会」「環境」「国際問題・異文化理解」「日本語・日本人」「教育」「福祉」「政治・経済」「情報・メディア」「科学技術」「医療・看護」をテーマとした文章を読ませたが、一面的な見方にとどまってしまうものがいくつかあった。「国際問題」「科学技術」等は近年の変化が著しい上に、実体験として捉えられる部分が浅く、常に関心を持って見ていく姿勢が必要であると感じた。また、テーマ毎にその専門家の意見文を読むことで、問題の核心に触れる機会を得ることはできたと言える。

生徒間で回し読みをし他者の意見を知ることは、自身の意見や文章作りを見直し深める取り組みとなっ　た。さらに、良い点や直すべき点等指摘し合うことで気付きもあり、読む側も意識して読むことで次に書く時の視点を広く持つことができるようになったと感じる。また、新聞社へ投稿し、実際に掲載されたことにより、書く意欲や表現の工夫等の意識が高まったと思われる。

**（４）取組の中で感じられた課題と考えられる原因**

あらゆる社会問題に常に関心を持ち把握していくということはなかなかできることではなく、関心事に　偏りがあることが原因として考えられる。特に進路先が明確になる３学年では、自身の進路関係の事柄には深く精通し、そうではない分野では表面的な理解にとどまっているような面が見受けられた。限られた時間の中でいかに幅広く情報収集と整理をしていけるか。

**（５）（４）で感じられた課題に向けての改善策（案）**

①実社会の状況や問題を把握するための新聞スクラップ作成を継続的に行う。その際に、テーマを与え、偏　　　　　　　　　　　　　　　りのないようにする。記事の要約、あるいは記事に対する意見を少しでも書き記すことを日課にできたらよ　いのではないか。

②分野別に記事を掲示し常に目に入るようにする。生徒が気になったものを自由に持ち寄り貼り出していく　ことで、視野を広げられるのではないか。

③時事問題について伝え合う時間を作る。話をするためにはその事柄について理解している必要があるため、情報収集や整理を自主的に行う習慣をつけることに繋げられるのではないか。